



「つながる学校 広がる毎日」

— 子供たちを真ん中に、学校・病院・地域が寄り添う —

新しい年度が始まり、学校のあちこちで「つながる」という言葉を実感する瞬間が増えています。子供たちが誰かと目を合わせ、声を交わし、思いを届け合うその一つひとつが、学校という場所をあたたく形づくっているのだと実感します。子供たちを真ん中に小さなつながりが重なり合い、学校全体が一つのやわらかな輪になっていくそんな春の始まりを感じています。



—病院のみなさんとつながる—

【長崎病院のモミジバフウ】



訪問教育生徒の病棟での対面始業式。初めて入る居室で生徒がどんな顔をして待っているのかとても楽しみでした。廊下や居室では、看護師さんや病棟スタッフの方々が一緒に生徒の新たな学年の始まりを喜んでくださいました。スタッフの方に付けてもらった素敵な髪飾りがとても似合っていて、大切に育てられていることがよく分かりました。

式では、昨年度頑張ったことや今年度の学習や行事、同じ学年の友達とのリモート授業などを話す中で、生徒が舌を動かしたり、かすかに声を出すのが聞こえたりしてそれをみんなで喜び合うこともできました。始業式の終盤には、隣のベッドの方も一緒になって校歌を歌い、温かな空気に包まれた楽しいひと時となりました。医療と教育が重なり合うこの場所では、担任と病棟スタッフの方が気軽に言葉を交わし、子供の様子を丁寧に共有しながら一つにつながっていくことが大切なのだと改めて実感しています。

—放送で子供たちとつながる—

12時20分頃になると放送へ向かうのが私の日課です。出張等で不在の時には他のDJが登場するのですが、子供たちにとってはそれも楽しみの一つ。放送では、給食発表、音楽のリクエスト、日によって三択クイズや行事、季節の話題にもふれます。一番の楽しみは、子供たちからのリクエスト音楽で、毎朝「どんなリクエストが来ているかな？」とわくわくしながらリクエストBOXを確認に行きます。何も入っていないとガッカリでも、担任の先生と一緒に校長室までリクエスト用紙を持って来てくれることもあるので、待つ楽しみもあります。リクエスト音楽には、メッセージやコメントを添えてくれていることが多く、給食の放送は、子供たちの心と私をやさしくつないでくれます。

—地域とつながる—

先日、市民団体「つながる長崎」代表の方から、子育て応援活動についてのご連絡をいただきました。こちらは、子ども食堂の運営や食品配布活動、地域の方々が集う“つながる場”づくりなど、長崎市を拠点に温かい取り組みを続けておられます。長期休みやGWの土曜日には、長崎市役所で子ども食堂・子どもの居場所づくりを開催されています。この度、本校にも温かいお気持ちとともに、備蓄米をご寄贈いただくことになりました。地域の皆さまが学校や家庭、そして子どもたちに心を寄せてくださることに深く感謝申し上げます。長崎のまちに流れるやさしいつながりを、これからも大切にしていきたいと思ひます。



(西山)